



©吉野信

**7月25、26日に** インドネシアで「トラ保護実績評価会議」が開かれます。2010年寅年にロシアで開かれた世界トラ保護会議「トラサミット」でトラの個体数を次の寅年(2022年)までに倍増させる首脳宣言が出されるとともに、各生息国がトラ回復計画を立案しましたが、その実績を評価するのが今回の会議です。

現在のところ、インドやロシアなど一部の生息国では保護区を拡大するなどトラの保全にそれなりの効果を上げていますが、かつては14か国あったトラの生息国が、北朝鮮、カンボジアでは絶滅、中国、ラオス、ベトナムでは絶滅宣言を待つばかりです。今回のインドネシアでの会議では、トラの再導入の報告もなされます。カンボジアへ導入されるベンガルトラや、かつてカスピ海周辺を今では絶滅してしまった亜種のカスピトラが闊歩していたとされるカザフスタンにアムールトラを導入する話もどこまで進んでいるのでしょうか。ロシアで

は親が密猟された子トラを飼育し野生復帰していますが、こういう子トラを放すのでしょうか。カザフスタンでもカンボジアでも、野生のシカやイノシシなどトラの獲物動物が十分いなければ、また密猟対策や山火事などへの対策がきちんと作動していなければ、トラだけを放しても無駄死にさせてしまうことになりかねません。

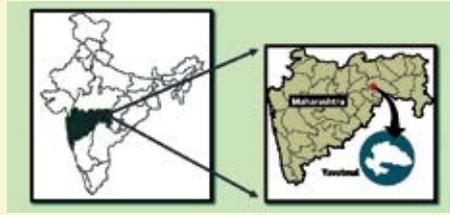
トラが少なくなってきたから、今では虎骨の代用品としてライオンの骨が狙われるようになり、ライオンも数を激減させています。漢方薬に使われる虎骨だけでなく、トラの持つ強さと気高いイメージから爪や歯がお守りとしてインドシナ半島ではブラックマーケットが存在し、ネットショップでも根強い人気があります。

次の寅年まであと5年。どこまでトラたちの立場に立って各国が保全対策を立てられるのか、7月の会議を見守りたいと思います。

# JTEFの新しい支援地、ティペシュワール野生生物保護区 in マハラシュトラ州 トラとの共存を目指して



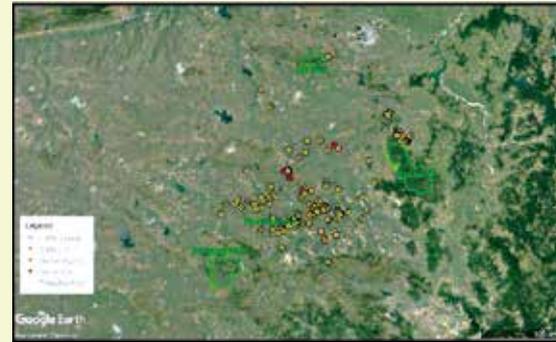
今まで10年以上JTEFが支援してきた中央インドマハラシュトラ州のナグジラ・ナワゴントラ保護区の南にあります。中央インドは「トラ天国」ともいわれ、地球上にいる野生のトラ3,500頭の半数以上が暮らすインドのトラ個体数の20%以上が生息しています。カーナ、サツプラ、ペンチ、メルガート、タドバ等いくつかの保護地域を含む熱帯落葉樹林帯とトラの移動に不可欠な森林コリドーがト



ラを育てているのです。支援を始めたティペシュワール保護区の広さはわずか148.6km<sup>2</sup>(大体川崎市と同面積)ですが、さまざまな植物相が、多くの魚類、30種の哺乳類、渡り鳥を含む160種の鳥類、26種の爬虫類、4種の両生類、無数の昆虫を支えています。

以前、この森林はタドバ・トラ保護区とテレンガナ州にあるカワル・トラ保護区を結ぶ大切なコリドーとしてトラが移動していると考えられていましたが、今日ではこの保護区に定住するトラも確認されています。現在、森林局の調査では保護区を含めいくつかの森林の断片を含む地域に、12頭の成獣と18頭の子トラが生息しているそうです(下図参照)。

トラの個体数増加は大変喜ばしいことではありますが、保護区管理がきちんとできていない場合、村人とトラとの軋轢が起こることになります。このティペシュワール野生生物保護区でも、人との軋轢が高まって、わずか15か月で人間が7名、家畜が44頭も被害にありました(下図の黄丸が家畜の捕殺、赤丸が人の死亡事故の発生場所)。



罎にかかったトラ ティペシュワール ©WTI

## JTEFとWTIの取り組み

そこで、JTEFはインドのパートナー、インド野生生物トラスト(WTI)と共にこの保護区のコネクションを開始しました。主な活動は以下の通りです。

### 1. 住民参加の軋轢対応チーム(Priority Response Team)の結成

人々が野生生物の保全に関心を持つには軋轢を緩和する活動に関わることが重要です。JTEFとWTIは名誉保護区長であるラムザン・ピラニ博士と共に12の軋轢が起きやすい村の住民と定期的に会合を開き、地域社会の関わり方や軋轢予防のための重要な戦略会議をもちました。村の若者たちはこれ以上トラとの軋轢が起きないように、パトロールを開始し、このことが彼ら自身でこのティペシュワールを守る責任感を持つ第一歩となりました。森林内に暮らす部族のコミュニティも主要な利害関係者の1つであるため、彼らの生活水準を上げるための措置も取られました。

このチームの目標はまず、トラやヒョウ、ナマケグマによる人への脅威を軽減し、そして人との軋轢により野生生物の死亡率を下げることです。



定期的会合の様子



WTIのビダルバ・トラ保護プロジェクトメンバーはPRTの役割、義務、モニタリングに関して、WTIの獣医師、野生生物学者はトラの生態、動物の行動、および有毒なヘビの基本的な予防措置について話しました。

### 2. 森林局の最前線森林スタッフのサポート Frontline Forest Staff Training

15か月間に7人の被害者と44頭の牛がトラにやられたことで、人々の間に森林局への不安が拡大しているため、JTEFとWTIは新しいパトロール活動チームを組織し、問題のあるトラを追跡するなど活動を強化しました。多くの職員が新しく任命され軋轢問題に関わることになりましたが、野生生物局の職員は緊急事態に対処するために必要な技術的、財政的基盤が不足していたので、ティペシュワール名誉保護区長と協力し、野生生物犯罪捜査、インドの野生生物法、生態学的モニタリング、動物救護活動技術などのトピックに焦点をあてた2日間のトレーニングワークショップを開催しました。WTIチームの生物学者は自動撮影カメラの使用や、トラの足跡を測定する技術、他の動物のサインなど集中的な講義を行い、WTIの獣医は動物を捕獲する際のポイントを伝えました。



親子トラ ©Dr.Ramzan Virani WTI

### 3. 開発の規制

マハラシュトラ州政府森林局は、WTIの提言を踏まえて、ラムザン・ビラニ博士を含む専門家集団を構成し、保護地域の近くの灌漑水路の建設によるトラの生息地の分断を緩和するための包括的な計画を策定するとともに、生態学的に配慮を要する区域を定め、その中では石の粉碎、製材工場、鉱業など全ての汚染源を閉鎖または規制して、野生動物の生息環境の安全を図ることになりました。

### 4. 自然ガイドトレーニング Nature Guide Training

地域住民を含めた自然保護のアプローチとして、地元のコミュニティが野生動物の保護による観光利益を得ることも重要な取り組みです。

トラ個体数が増えたため、多くの観光客がこの辺鄙な保護区を訪れています。そこで、州の森林局が任命した自然ガイドに、ただトラや他の動物を観光客に見せることが仕事ではなく、保全も重要と教育しました。これらのガイドの多くは保護地域に近い地元の村から来ており、野生生物保全の重要なステークホルダーになっています。村人を自然ガイドとして採用することは、彼らに所属感を与え、この保護区に誇りを持ち、今までとは別の生計の立て方を提供します。

3月末、エコツーリズムの質を高め生計に役立てることを目指し、ガイドのための2日間トレーニングワークショップを開催しました。32人のガイドが、保全、生態学の知識を向上させるために参加しました。このワークショップを受けると、より多くの収入を生み出す可能性があり、観光客もガイドを通して生物多様性を知り意識を広げる一助になります。WTIのチームメンバーは、動物の痕跡、保護地域の重要性、地域社会にどう役立てるかをフィールドで確認しました。JTJEFから参加者全員にリュックサック、Tシャツ、水筒、キャップ、靴を含むフィールドキットが提供され、士気が高まりました。

今まで自信が無かったガイドたちは「このワークショップを受け、たとえトラが見られなかったとしても、今回学んだティペシユールの歴史や生態学で観光客を魅了させることができます。」とトレーニングを高く評価し、キットに非常に満足していました。



Group picture

### 寄付のお願い トラと共に暮らす 地元若者へ 環境教育費用

(目標20万円)

あまりに軋轢が多かったため、地域住民が心からトラとの共存を考えるようになるには、まだ数年はかかるでしょう。しかし若者には正しい知識を持って、早くトラとの共存を目指してもらいたい。日本からの応援を伝えたいです。

# うえのトラ大使

- 出張授業と卒業式 -

「うえのトラ大使」と上野動物園スタッフと一緒にトラの保護を考える出張授業を行いました(1月20日台東区立上野小学校。2月16日台東区立忍岡小学校)。4年生全員にトラ大使がトラ保護授業をします。トラクイズや野生のトラになりきるゲームをやりました。「トラを守るにはトラだけ増やせばいい」○か×か?正解者多数で感動です。そう、多様な生きものがくらす環境が必要なんです。トラになりきるゲームでは、ブルトラ(なわばりのあるトラ)、イエロートラ(子育て中の母トラ)、グリーントラ(なわばりのない若トラ)を実体験。母トラは罾をくぐり抜け子どもの分も獲物を捕らなければならず、若トラは村で家畜に手を出して毒殺されることもあり、野生で生きる厳しさを実感したようです。

3月11日「うえのトラ大使」第2期生の卒業式。トラを守るために、周りの人たちにしたいこと、して欲しくないことをメッセージボードに書いてビデオ撮影し、オーロラビジョンで流されました。「地球が人間を中心に回っていると思わないでください。」という大使からのメッセージも。



ご報告  
**チャリティー  
 パーティー**  
 2018年  
 6月2日(土)  
 ビヤステーション恵比寿にて



「JTEFの活動を支えるチャリティー実行委員会」が開催するチャリティー・パーティーに、たくさんの賛同者やサポーターの方々にお越しいただきました。今年はゲストにポリウッド・ダンサーのアンジェラ・ラーガさんをお迎えし、ドネーションでもたくさんの方々からご協力いただき、とても賑やかで楽しい会となりました。みなさま、どうもありがとうございました。

○ドネーションについてのご報告○

**A) トラ**

カジランガのトラ ©WTI

パトロール装備・技術訓練費用  
 (目標300,000円)

**B) ゾウ**

カジランガのゾウ ©Jose Louise

傷ついたゾウのレスキュー費用  
 (目標300,000円)

**C) イリオモテヤマネコ**

◎田口美香

観光客増に伴う課題調査費(屋久島)  
 (目標300,000円)

**C) 緊急支援  
 イリオモテヤマネコ**

西部エリア夜間パトロール費用  
 (目標50,000円)

当日出席して下さった  
 方々からいただいたご寄付

- A) ..... 30,500円
  - B) ..... 37,500円
  - C) ..... 2,000円
  - ◎緊急支援.....35,500円
  - 無指定 ..... 1,000円
- 計 106,500円**

パーティーに参加されな  
 かった方々からJTEFにお  
 寄せいただいたご寄付、  
 その額も含めると、

- A) ..... 284,500円
  - B) ..... 261,000円
  - C) ..... 190,500円
  - ◎緊急支援... 35,500円
  - 無指定 ..... 17,000円
- 計 788,500円**

以上のご寄付は全額、「実行  
 委員会」からJTEFにご寄  
 付いただきました。

JTEFは、個人サポーターの方々からのご寄付の他、法人・団体からのご寄付、助成金、チャリティー・イベントでのご寄付で運営されています。たくさんのご寄付を、どうもありがとうございました。いただいたご寄付の最終的な決算の内容は、2019年2月発行予定の「年次報告書」(トラ・ゾウ・イリオモテヤマネコ・JTEF全体の4種)でご報告いたします。

【JTEFの賛同者】

- 相澤登喜恵さん(動物肖像画家)、新井晴みさん(俳優)、安藤元一さん(ヤマザキ学園大学教授)、池田卓さん(シンガーソングライター)、井上奈奈さん(現代アーティスト)、岩田好宏さん(子どもと自然学会顧問)、牛越峰統さん(一般社団法人日本プロサーフィン連盟理事長)、大森享さん(北海道教育大学教授)、岡田彰布さん(野球評論家)、小川潔さん(東京学芸大学教授)、加藤登紀子さん(シンガーソングライター)、蟹江杏さん(版画家)、見城美枝子さん(青森大学副学長・エッセイスト)、巨勢典子さん(作曲家・ピアニスト)、小林裕児さん(画家)、権藤真禎さん(社団法人兵庫県自然保護協会理事長・元神戸市立王子動物園園長)、坂本美雨さん(ミュージシャン)、沢田研二さん(歌手)、瀬木貴将さん(ミュージシャン)、田中豊美さん(動物画家)、田中裕子さん(俳優)、田畑直樹さん(葛西臨海水族園園長)、土居利光さん(前恩賜上野動物園園長・日本パンダ保護協会会長)、並木美砂子さん(帝京科学大学教授)、根本美緒さん(フリーキャスター・天気予報士)、南ぬ風まーちゃんうーぼーさん(三線アーティスト)、ヒサクニヒコさん(漫画家)、平岩弓枝さん(作家)、福井崇人さん(2025PROJECT 理事)、福田豊さん(恩賜上野動物園園長)、藤木勇人(志いさー)さん(唸家)、古沢広祐さん(國學院大學教授)、前川貴行さん(動物写真家)、松田陽子さん(シンガーソングライター)、水野雅弘さん(株式会社TREE代表・プロデューサー)、三石初雄さん(帝京大学専門職大学院教授)、宮下実さん(ときわ動物園園長・元近畿大学教授・大阪市天王寺動物園名誉園長)、村田浩一さん(日本大学生物資源科学部教授)、森川純さん(酪農学園大学名誉教授)、八千草薫さん(俳優)、山極 壽一(京都大学総長/進化論・生態学・環境生物学・動物学)、山崎薫さん(学校法人ヤマザキ学園理事長)、吉野信さん(動物自然写真家)、渡辺貞夫さん(ミュージシャン)

50音順 敬称略

**イベント 2018**  
 INFORMATION

「世界トラの日」  
 にブース出展  
 2018年7月29日(日)  
 場所：上野動物園

「世界ゾウの日」  
 にブース出展  
 2018年8月12日(日)  
 場所：上野動物園

ナマステ・インドア 2018  
 2018年9月29日(土)、30日(日)  
 場所：代々木公園 B地区

ディワリ・イン・ヨコハマ 2018  
 2018年10月(日は未定) 場所：山下公園

インドのお祭り、トラ、ゾウのパネルやグッズを展示します。

JTEFの活動は、皆さまからのご寄附で支えられています。野生動物と私たちの豊かな自然環境を守るために、ぜひ私たちの活動をご支援ください。

【年間サポーター費、随時寄附のお支払方法】

ゆうちょ銀行  
 口座番号) 00170-7-355897  
 加入者名) トラ・ゾウ保護基金

※年間サポート費(ご寄附)、随時の任意額ご寄附を年間2,000円以上くださいました方は、所得税の控除申告ができます。

☺ ホームページからクレジットカードでもご寄附いただけます。  
<http://www.jtef.jp>

JTEFの活動を  
 ご支援ください!



認定NPO法人  
**トラ・ゾウ保護基金**  
<http://www.jtef.jp/>

〒105-0001 東京都港区虎ノ門 2-5-4 末広ビル 3F  
 Tel: 03-3595-8088 Fax: 03-3595-8090  
 E-mail: hogokikin@jtef.jp <http://www.jtef.jp>  
 郵便振替口座：ゆうちょ銀行 口座番号) 00170-7-355897  
 加入者名) トラ・ゾウ保護基金

トラ保護基金通信 vol.31  
 発行日：2018年6月29日  
 発行人：戸川久美  
 編集：戸川久美  
 デザイン：土肥優子

・再生紙を使用しています・